

第2学年〇組 技術・家庭科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 教科研究主題 自ら課題をつかみ、問題解決する力を身につけた生徒の育成
—— 実践的・体験的な活動を通し ——

2 題材名 幼児の生活と遊び (A 家族・家庭と子どもの成長)

3 題材について

(1) 題材観

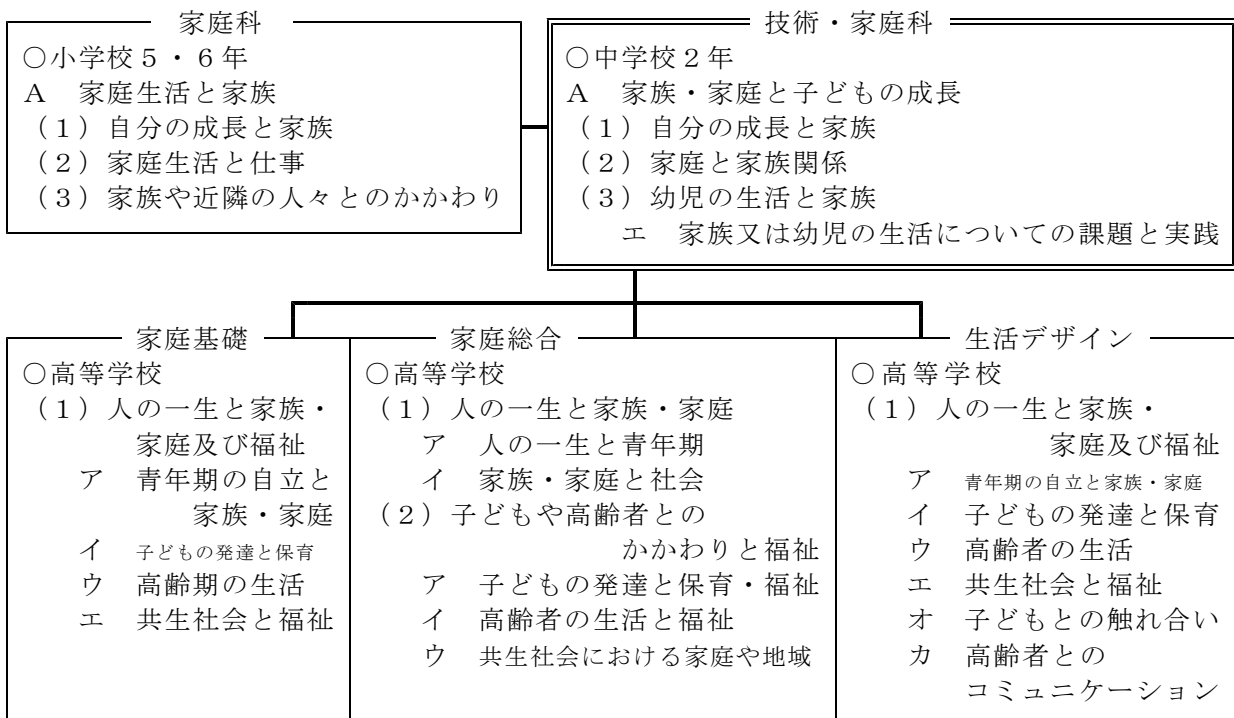
核家族化や少子高齢化、家族の形態や価値観も多様化している現代社会の中、中学生も日頃幼児に接する機会に乏しく、幼児に対する理解や関心は薄れていく傾向にある。そればかりか、塾や稽古事による遊び時間の減少、遊びの室内化、他人には干渉しない現代の風潮から、今の子どもたちにとっては生活の中から「人間関係」を学ぶという機会が減ってきているのが現状である。

そこで、人間の成長、発達とそれに関わる家庭や社会の役割を認識させ、家族を始めとする周囲の人々への感謝の気持ちをもたせたい。更に、幼児を取り巻く環境の中の一人として、幼児への関わり方に関心を持ち、幼児にとっての家族の役割や重要性を理解し、思いやりの心や豊かな心を育むことは大変意義深いことと考える。

学習指導要領では、遊び道具の製作や幼児と触れ合う活動などの実践的・体験的な学習を通して幼児に関心をもたせ、子どもが育つ環境としての家庭や家族の基本的な機能や重要性を理解させることをねらいのひとつとしている。従って、本題材では、幼児の生活は遊びが中心であり、幼児は遊びにより育ち、遊びはおもちゃによって、より充実できることに気づかせ、遊び道具が心身の発達を助ける役割をもつことを理解させたい。また、家庭分野として単にものづくりにとどまらず、物を作る学習を通して学校・家庭・地域など自分の周囲の人との心のつながりを大切にし、自分を育てていく「心の教育」を図りたいと考え、実践の場として保育所訪問を設定した。実際に簡単な遊び道具を製作し、保育所へ行って幼児と触れ合う学習を通して、幼児にとっての遊びの役割や大切さを理解させると同時に、幼児と大人との関わりや子どもが育つ環境についても考えることができるようにさせたい。そして、よりよい家庭や社会を築こうとする意欲や態度を養いたいと考え、本題材を設定した。

(2) 指導内容の系統性

教材の配列は、次の通りである。



(3) 生徒の実態 (男子 人, 女子 人, 計 人)

○本時の授業を行うにあたって, 以下のような問題で生徒の実態を調査した。

(調査人数 人 調査実施日 平成 年 月 日)

調 査 項 目	回 答
①身近に幼児(1歳～6歳)がいて, よく接したり遊んだりする機会がありますか?	・はい… 人 ・いいえ… 人
②「はい」と答えた人は, その幼児との関係を教えてください。	・兄弟姉妹… 人 ・親戚の子ども… 人 ・友達の兄弟姉妹… 1人
③幼児は好きですか?	・はい… 人 ・いいえ… 人
④理由は何ですか?	・かわいい・無邪気 ・素直だから など ・うるさい・面倒 ・しつこいからなど
⑤幼児についての学習は楽しいですか?	・はい…人 ・いいえ…人
⑥幼児の学習の中で, 特にどんな学習に興味がありますか?	・幼児の遊び… 14人・幼児との触れ合い… 12人 ・幼児の心身の発達… 9人
⑦今までに手作りのおもちゃを作ったことがありますか?	・はい…人 ・いいえ…人 (水鉄砲, つみき, ブーメラン, 迷路など)
⑧おもちゃ作りは楽しみですか?	・はい…人 ・いいえ…人
⑨どんなおもちゃを作りたいですか?	・楽しめる・安全・丈夫・かわいい など
⑩おもちゃを作る時, どんな点を工夫したいですか?	・安全性・衛生面・機能性・かわいさ ・配色 ・再利用 など
⑪幼児と遊ぶ時に注意する点を知っていますか。	・はい…人 ・いいえ…人
⑫保育所へ行き, 幼児と触れ合いたいですか?	・はい…人 ・いいえ…人

<考察>

本学級は, 明るく素直で, 熱心に作業や学習活動に取り組む生徒が多い。そして, 幼児の学習に興味をもち, これまで, 自分自身の成長を調べたり, 生命の誕生に関する授業などに意欲的に取り組んでいる。

実態調査から, 兄弟や親戚の子ども, 近所の子どもなど, 身近に幼児のいる生徒は少なく, 普段接することがあまりないことがわかる。しかし, 「かわいい」「無邪気」「素直」などの理由から幼児が好きだという生徒は多く, 幼児の学習も楽しみにしているようだ。

特に, 学習内容としては, 「幼児の遊び」に関心が高く, 次いで「幼児との触れ合い」, 「幼児の心身の発達」の順になっている。そこで, 保育所訪問のような実践的・体験的な学習を通して, さらに幼児に対する理解を深めさせたい。また, 手作りのおもちゃを製作した生徒は10名と少ないものの, おもちゃの製作を楽しみにしている生徒は多いことから, 「遊びの意義」や「おもちゃの役割」などをしっかり考えさせ, 幼児のおもちゃに適した条件を満たしながらおもちゃ製作をさせ, 保育所訪問や日常生活で生かしたいと考える。

4 目 標

観 点	到 達 目 標
生活や技術への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の幼いころをさまざまな観点から振り返ろうとしている。 ・幼児に関心をもって、安全に配慮しながら、遊び道具の製作をしている。 ・幼児の言語や活動、周囲の大人との関わりに注目して観察し特徴について気づくことができる。
生活を工夫し 創意する能力	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と幼児の生活をよりよくしようとするために実践している。 ・幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え、これから触れ合う幼児のことをイメージし、試行錯誤しながら工夫し、製作している。 ・幼児の発達を促し、創意工夫を引き出す遊びを工夫できる。
生活の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達段階に応じた遊びを考え、安全に配慮して遊んでみるることができる ・子どもの発達や安全に留意した幼児の遊び道具を作成することができる。
生活や技術についての 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びは、体の発達や運動機能、言語、情緒、社会性などの発達を促していることを理解している。 ・幼児の成長を支えるための地域社会や社会の役割と重要性について理解している。 ・幼児の体の特徴や心の発達を理解し、自分達との違いを説明することができる。 ・基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性とそれを支える家族の役割について説明できる。 ・幼児にとっての遊びが生活の基盤であることを理解している。

5 指導計画（10時間扱い 本時は6時間目）

時間	学 習 内 容	支援及び指導上の留意点	評 価 規 準 (規 準 : 方 法)
1	1. 幼児期ってどんな時代？	<ul style="list-style-type: none"> ・各自に「成長の記録」を作成することにより、多くの人とのかかわりの中で成長してきたことに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の幼い頃をさまざまな視点から振り返ることができる。(関・意・態、知・理：発表、学習プリント)
1	2. 幼児の体の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期は、身長・体重の増加が著しいことや成長には個人差があることをつかませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達段階に応じた体の発達の特徴について学習プリントにまとめることができる。(知・理：発表、学習プリント)
1	3. 幼児の心の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の心の発達が自立につながることをつかませる。 ・豊かな感情を育てるにはどんな接し方をすればよいか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達段階に応じた心の発達(言語・情緒・社会性)の特徴について学習プリントにまとめることができる。(知・理：発表、学習プリント)
1	4. 子どもの成長と 家族の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と幼児のかかわりをロールプレイングすることで家族の役割についての理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達を支える家族の役割について具体的な場面から理解し、ロールプレイングしたり学習プリントにまとめることができる。(知・理：観察、学習プリント)
1	5. 子どもの成長と 地域	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを支える地域のシステムについて調べたり話し合 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を支えるために地域の施設や行事、そ

		ったりして支援システムの充 実を知らせる。	れを支える人びとがいるこ とを理解し、学習プリント にまとめることができる。 (知・理：観察、学習プリ ント)
1 本時 6 / 10	6. 幼児の遊びと発 達	・幼児にとって遊びが生活の 基盤であることをつかませ る。	・幼児の遊びの特徴と意義に ついて理解し、学習プリント にまとめることができる。(知 ・理：発表、学習プリント)
1	7. 幼児の遊びを支 える。	・幼児の遊び道具の役割や遊 びを支えるな環境について考 えさせ、外遊びや安全な環境 の重要性を確認する。	・遊び道具の役割と遊びを 支える環境の重要性を理解 し、学習プリントにまとめ ることができる。(知・理： 発表、学習プリント)
3	8. 幼児と遊ぶおもち ゃづくり	・安全への配慮やコミュニケー ションを考えさせる。 ・市販品や自然の物との比較を させ、それぞれのよさや特徴に 気づかせる。	・幼児の発達段階を押さえ、 身近な材料を活用した遊び道 具を工夫し、さらに、安全に 配慮して製作することができ る。(工・創：観察、作品)

6 本時の指導

(1) 目 標

幼児の遊びの特徴に気づくとともに、幼児の遊びについて学習プリントにまとめるこ
とができる。
(生活や技術についての知識・理解)

(2) 教科研究主題との関連

本校の技術・家庭科部会では、「①社会の変化に対応しながら、生活を営む上で生じる様々
な課題を解決する力②自ら判断し、習得した知識や技能を生活に生かす力」の2点を「伸
ばしたい確かな学力」と位置づけた。授業の取り組みの中で基礎・基本を定着させ、課題
解決能力を育成するためには、教材開発や評価方法を工夫し、生徒が学習の成果を実際に
生活に生かせる授業を実践することが重要であると考えている。また、表現する力を育成す
るためには、言葉だけではなく、製作図やデザイン画、献立表といった図表及び衣食住や家
族に関する参考資料などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を積極的に取
り入れ、実践することが必要であると考えている。そこで、これらの実現をめざし、本授業で
は、自身の成長の記録や遊びカード、資料などをもとに、幼児の遊びと発達について考え、
説明したり学習プリントにまとめたりすることで、表現力や、実際に幼児と触れ合うとき
に必要な技能や知識・理解を身につけさせたい。さらに、個別の評価を活用し、毎回の学
習を振り返らせることで、意欲の高揚を図り、学んだことを今後の生活の中で積極的に生
かそうとする生徒を育成したい。

(3) 展 開 (本時 6 / 10)

※表現する力を育成する取り組み

時配 形態	学 習 活 動 と 内 容	支援及び指導上の留意点 ◎ 評価 (規準：方法)
3分 一斉	1 本時の学習課題がわかる。 ・乳幼児の1日をふり返り、学習 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 幼児の遊びの特徴や、幼児の 遊びの意義について考えよう。 </div>	・乳幼児の1日の生活をふり返らせ、睡眠 や食事の他、殆どが遊びであることから、 幼児の遊びについて関心をもたせたい。

5分 一斉	2 「かくれんぼ」で遊んだ経験から、遊びの面白さを想起する。	・「かくれんぼ」をして遊んだ経験から遊びの楽しさをふり返らせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・鬼になりたくなかった。 ・はらはら、どきどきした。 ・見つからないように工夫した。 ・仲間とやって楽しかった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に意見を自由に発表させることで、学習に対する意欲を高めさせるよう配慮する。
22分 一斉 ↓ グループ 個別	3 幼い頃の遊びの中でどのようなことを身につけ、育ててきたか考え、幼児にとっての遊びの役割について考える。	・幼い頃にはどんな遊びをしていたか、成長の記録を参考にいろいろな遊びを想起させ、発表させる。
	①幼い頃に遊んだ遊びを発表する ・ぬいぐるみ ・かけっこ ・サッカー ・仮面ライダーごっこ ・プラレール ・すべり台・三輪車・水遊び・ブロック ・ままごと・ピアノ・絵本・お絵かき など	・遊びが分類できるように、あらかじめマグネットつき遊びカードを用意しておく。
	②「かくれんぼ」から引き出される能力について考え、発表する。 【かくれんぼ】 ・体を使う→体・運動能力の発達 ・見つからないよう工夫する→ 思考力・判断力の発達 ・仲間と遊ぶ→社会性の発達 言語能力の発達 情緒の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、「かくれんぼ」から引き出される能力についてまとめていく。 ・体を使った遊び、考えながら行う遊び、仲間とふれあう遊びなど、各遊びによってそれぞれ引き出される能力があることを確認する。
	③遊びを通して、幼児はどのような能力を身につけているのか考える。 ・5種類の遊び（感覚遊び、運動遊び、受容遊び、模倣遊び、構成遊び）について、遊びカードを分類することができる。	※黒板の図や学習プリントに、遊びの種類ごとに遊びカードを分類することで、遊びの役割を整理するようにしたい。
15分 一斉 グループ ↓ 個別	4 人との関わり方も学んでいることや、人と関わる遊び方の変化にも気づくことができる。 1. 大人と遊ぶ→2. 一人で遊ぶ→3. 友達のそばで遊ぶ→4. 友達と協力して遊ぶ→5. 大勢でルールを決めて遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・遊んでいた年齢、遊び方などが、遊びの種類によって異なることに気づかせる。 ・幼児は多くの活動を通して、気持ちをコントロールすることも学んでいる。生活そのものといえる遊びからさまざまなことを学んでいることに気づかせる。
4分 個別	5 学習プリントに今日の学習のまとめをし、自己評価する。 ★幼児にとっての遊びとは、 ・さまざまな能力を引き出し、発達させる。 ・人と関わる力を育てる。	◎幼児の遊びの特徴や遊びの意義について、学習プリントにまとめることができたか。 (生活や技術についての知識・理解 : 学習プリント)
		・幼児にとって遊びが重要であることを確認する。
1分 一斉	6 次時の学習内容をつかむ。	・次時は、遊びを支える道具や環境について考えることをつかませる。

第2学年〇組 技術・家庭科学学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名 A家族・家庭と子どもの成長「幼児の生活と遊び」

2 教科研究主題との関連

本校の技術・家庭科部会では、「①社会の変化に対応しながら、生活を営む上で生じる様々な課題を解決する力②自ら判断し、習得した知識や技能を生活に生かす力」の2点を「伸ばしたい確かな学力」と位置づけた。授業の取り組みの中で基礎・基本を定着させ、課題解決能力を育成するためには、教材開発や評価方法を工夫し、生徒が学習の成果を実際に生活に生かせる授業を実践することが重要であると考えている。また、表現する力を育成するためには、言葉だけではなく、製作図やデザイン画、献立表といった図表及び衣食住や家族に関する参考資料などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を積極的に取り入れ、実践することが必要であると考えている。そこで、これらの実現をめざし、本授業では、自身の成長の記録や参考資料をもとに、乳幼児期の体の発達の特徴について考え、説明したり学習プリントにまとめたりすることで、表現力や、実際に乳幼児と触れ合うときに必要な技能や知識・理解を身につけさせたい。さらに、評価カードを活用し、毎回の学習を振り返らせることで、意欲の高揚を図り、学んだことを今後の生活の中で積極的に生かそうとする生徒を育成したい。

3 本時の指導

(1) 目標

幼児の体型の特徴を知り、中学生が実際に幼児と触れ合う場面で注意すべき点に気付くことができる。
(生活や技術についての知識・理解)
(生活)

(2) 展開 (本時4 / 17)

時配 形態	学 習 活 動 と 内 容 (○表現する力を育成する取り組み)	支援及び指導上の留意点 ◎ 評価 (規準：方法)
3分 一斉	1 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 体の発達には、どんな特徴があるだろうか？ </div>	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の写真を見せ、現在の自分達とどのような違いがあるか考えさせ、体の発達について関心を抱かせる。
8分 個別 ↓ 一斉	2 出生時の身長と体重を黒板の数値線の上に示すことができる。 ①自分の出生時の身長・体重 ②新生児の平均身長・体重 ・身長…約50cm ・体重…約3000g	<ul style="list-style-type: none"> 成長の記録を参考に、自分の身長と体重を記入した磁石付きのネームプレートを、黒板の数値線の上に貼り、出生時の数値に興味をもたせる。 実物大保育人形を抱かせ、新生児の大きさを実感させる。
8分 個別 ↓ 一斉	3 身長と体重の発育の仕方のグラフを参考に、気付いたことを学習プリントに記入し、発表する。 ①発育の著しい時期…・乳幼児期 ・中学生 ②1歳で身長は、約1.5倍、体重	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P152や資料のグラフを参考に、体の発達が一番著しいのは、乳児期であり、1年間で身長が約1.5倍、体重は、約3倍にもなっていることに着目させる。次に幼児期、そして、中学生も著しいことを確認する。

	は、約3倍になっている。	
	③ 4歳の平均身長は、約100cmで、出生時の約2倍、体重は、約16kgで、約5倍になっている。	
12分 個別 グループ ↓ 一斉	<p>④ ④ 幼児の体型の特徴について、資料を参考に、中学生と比較しながら気付いたことを学習プリントに記入し発表する。</p> <p>① 幼児は、頭の割合が大きく、重心が上の方にあるので転びやすい。</p> <p>② 幼児は、手足が短いので、机やイスなど幼児に適したものをを用いるなどの配慮が必要。</p> <p>③ 幼児は、胴囲りにくびれがないので、サロペットやワンピース、胴囲がゴムなどが良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考えが深まるように、近くの生徒と話し合うようアドバイスする。 ・資料を参考に比較検討させ、幼児期は手足が短く、体に対して頭の割合が大きいため、転びやすい特徴があることに気付かせる。 ・日常生活でも、幼児に適したものをを用いるなどの配慮が必要なことに気付かせる。 ・また、胴にくびれがないため、衣服にも配慮が必要であることにもふれる。
10分 一斉 ↓ 個別	<p>5 乳歯の発育や幼児期の体の機能の発達について知り、学習ノートにまとめることができる。</p> <p>① 幼児期は、乳歯がはえそろう、内臓器官や骨格なども発達する。</p> <p>② 脳と神経系が著しく発達する。</p> <p>③ 呼吸や循環機能、消化吸収の機能や体温の調整機能も発達していく時期である。</p> <p>④ 体の発育、さまざまな機能の発達には個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳歯の発生順序と時期がわかる資料やスカモンの曲線を提示し、人の身体発育は部位によって異なり、大きく4つの型（①一般型②神経型③リンパ型④生殖型）に分かれることを説明する。幼児期は急激に発達する時期であるが、中学生も再び成長する時期であることにも気付かせる。 ・幼児期は、神経型（脳や脊髄）が著しく発達するので、体に対して頭の割合が大きくなることを、再確認する。 ・体の発育、さまざまな機能の発達には、個人差があることを知らせる。
8分 個別	6 学習プリントに今日の学習のまとめをし、自己評価する。	◎ 体の発達の特徴がわかり、学習ノートにまとめることができたか。 (生活や技術についての知識・理解)
1分 一斉	7 次の学習内容をつかむ。	・次は、運動機能の発達について考えることをつかませる。

第2学年〇組 技術・家庭科学学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名 子どもの成長（B 家族と家庭生活）

2 教科研究主題との関連

技術・家庭科では、「①社会の変化に対応しながら、生活を営む上で生じる様々な課題を解決する力②自ら判断し、習得した知識や技能を生活に生かす力」の2点を「伸ばしたい確かな学力」と位置づけた。指導の手だてとして、授業の取り組みの中で基礎・基本を定着させ、課題解決能力を育成するために、教材開発や評価方法を工夫し、生徒が学習の成果を実際に生活に生かせる授業を実践することが重要であると考え。また、表現する力を育成するためには、生活における課題を解決する中で、言葉だけではなく、製作図やデザイン画、献立表といった図表及び、衣食住や家族や家庭生活に関する資料・データなどを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を積極的に取り入れ、実践することが必要であると考え。

そこで、これらの実現をめざし、本授業では、自身の成長の記録や参考資料をもとに、乳幼児期の体の発達の特徴について考え、説明したり学習プリントにまとめたりすることで、表現力はもちろん、知識・理解や実際に乳幼児と触れ合うときに必要な技能を身につけさせたい。また、評価カードを活用し、良かった点や改善点を見つけるなど毎回の学習を振り返らせることで、意欲の高揚を図り、学んだことを今後の生活の中で積極的に生かそうとする生徒を育成したい。

3 本時の指導

(1) 目標

体の発達の特徴がわかり、学習プリントにまとめることができる。

(生活や技術についての知識・理解)

(2) 展開 (本時4 / 17)

時配 形態	学 習 活 動 と 内 容 (○表現する力を育成する取り組み)	支援及び指導上の留意点 ◎ 評価(規準：方法)
3分 一斉	1 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 体の発達には、どんな特徴があるだろうか？ </div>	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の写真を見せ、現在の自分達とどのような違いがあるか考えさせ、体の発達について関心を抱かせる。
8分 個別 ↓ 一斉	2 出生時の身長と体重を黒板の数値線に示すことができる。 ①自分の出生時の身長・体重 ②新生児の平均身長・体重 ・身長…約50cm ・体重…約3000g	<ul style="list-style-type: none"> 成長の記録を参考に、自分の身長と体重を記入した磁石付きのネームプレートを、黒板の数値線に貼り、出生時の数値に興味をもたせる。 実物大保育人形を抱かせ、新生児の大きさを実感させる。
7分 個別 ↓ 一斉	3 身長と体重の発育の仕方のグラフを参考に、気付いたことを学習プリントに記入し、発表する。 ①発育の著しい時期…乳幼児期 ・中学生	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P152や資料のグラフを参考に、体の発育が一番著しいのは、乳児期であり、1年間で身長が約1.5倍、体重は、約3倍にもなっていることに着目させる。次に幼児期、そして、中学生も著しいこ

<p>8分 個別 グループ ↓ 一斉</p>	<p>② 1歳で身長は、約1.5倍、体重は、約3倍になっている。</p> <p>③ 4歳の平均身長は、約100cmで、出生時の約2倍、体重は、約16kgで、約5倍になっている。</p> <p>④ 幼児の体型の特徴について、資料を参考に、中学生と比較しながら気付いたことを学習プリントに記入し発表する。</p> <p>① 幼児は、頭の割合が大きく、重心が上の方にあるので転びやすい。</p> <p>② 幼児は、手足が短いので、机やいすなど幼児に適したのを用いるなどの配慮が必要。</p> <p>③ 幼児は、胴囲りにくびれがないので、サロペットやワンピース、胴囲がゴムなどが良い。</p>	<p>とを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を参考に比較検討し、幼児期は手足が短く、体に対して頭の割合が大きく、転びやすい特徴があることに気付かせる。 日常生活でも、幼児に適したのを用いるなどの配慮が必要なことに気付かせる。 また、胴にくびれがないため、衣服にも配慮が必要であることにもふれる。 考えが深まるように、近くの生徒と話し合うようアドバイスする。
<p>8分 一斉 ↓ 個別</p>	<p>5 乳歯の発育や幼児期の体の機能の発達について知り、学習ノートにまとめることができる。</p> <p>① 幼児期は、乳歯がはえそろい、内臓器官や骨格なども発達する。</p> <p>② 脳と神経系が著しく発達する。</p> <p>③ 呼吸や循環機能、消化吸収の機能や体温の調整機能も発達していく時期である。</p> <p>④ 体の発育、さまざまな機能の発達には個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 乳歯の発生順序と時期がわかる資料やスカモンの曲線を提示し、人の身体発育は部位によって異なり、大きく4つの型（①一般型②神経型③リンパ型④生殖型）に分かれることを説明する。幼児期は急激に発達する時期であるが、中学生も再び成長する時期であることにも気付かせる。 幼児期は、神経型（脳や脊髄）が著しく発達するので、体に対して頭の割合が大きくなることを、再度確認する。 体の発育、さまざまな機能の発達には、個人差があることを知らせる。
<p>10分 個別 ↓ 一斉</p>	<p>6 全身運動と手先の運動機能の発達の仕方を考え、発表し、学習プリントにまとめることができる。</p> <p>◎全身運動…①寝返りをうつ②一人で歩く③階段をのぼる④走る⑤三輪車をこぐ⑥ブランコや縄跳びをする</p> <p>◎手先の動作…①積み木をもつ②ボールを投げる③はさみを使う④はしで食べたり鉛筆で書いたりする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一つの目的に応じて頭・胴・手・足が協同してはたらく能力ができていくことを運動機能の発達といい、運動機能は幼児期に最も発達することを知らせる。 成長の記録から、初めて歩いた時期を挙げさせ、歩くまでの発達の順序を確認し、幼児期の発達は、頭から足へ、中枢から末端へすすむ順序性があることや個人差があることを確認する。
<p>5分 個別</p>	<p>7 学習プリントに今日の学習のまとめをし、自己評価する。</p>	<p>◎体の発達の特徴がわかり、学習ノートにまとめることができたか。 (生活や技術についての知識・理解)</p>
<p>1分 一斉</p>	<p>8 次の学習内容をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次は、心の発達について考えることをつかませる。

第3学年〇組 技術・家庭科学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

1 教科研究主題 自ら課題をつかみ、問題解決する力を身につけた生徒の育成
—— 実践的・体験的な活動を通し ——

2 題材名 簡単な衣服（ハーフパンツ）を作ろう！（A 生活の自立と衣食住）

3 題材について

（1）題材観

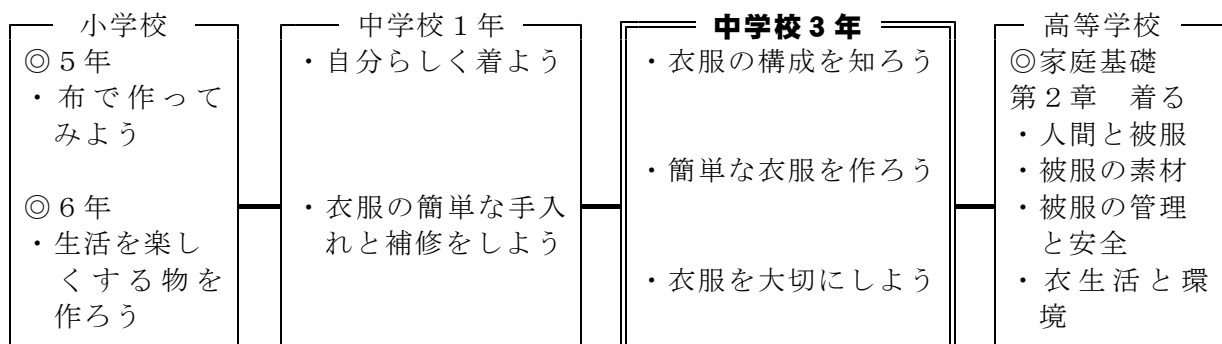
社会の変化に伴い、大量生産・大量消費の時代となり、衣生活においても、私達は自分で衣服を作ったり手作りの衣服を着たりすることが少なくなり、ほとんどが既製服を購入し、それを着用するようになってきている。そのため、衣服を自分で手作りする意識は、ほとんどの生徒にない。現行の学習指導要領では、選択の内容になっている衣服製作において、衣服の基本的な構成を知ることや縫う技術の習得を目的にしているが、それとともに、今後手作りの衣服を着用する機会が少ない生徒達に、これからずっと着用していく衣服を製作してみることで、製作することの大変さやありがたさを味わわせることは大切であると考えられる。

そこで、本題材「簡単な衣服を作ろう！」では、必修題材「自分らしく清潔に着る」の学習により得た衣生活の基本的な内容を生かしながら、簡単な衣服の製作について計画・実習することにより、作品を完成させる喜びを味わい生活に活用できるようになることをめざしたい。製作実習課題は、①少ない履修時間に十分対応できるもの。②男女が興味・関心をもって取り組めるもの。③個々の生徒の興味や技術に応じて応用・発展が可能なもの。などの観点から「ハーフパンツの製作」を取り上げた。「ハーフパンツ」は、機能的で男女とも日常着として幅広く活用され、小学校で学んだ基礎的・基本的な知識や技能を生かし、さらに発展させ、効果的に活用できるだけでなく、たけの長さをかえたり、色々な形のポケットや飾りをつけたりするなどの工夫も比較的容易にできるので、個性を生かすことができる。

以上のように、生きていくために欠かすことのできない衣生活、そして、生徒の興味・関心の高い、流行によって変わる衣生活の原点でもある製作を、ハーフパンツの製作を通して、あらためて衣生活を見直す機会としたい。また、自分で製作したという成就感やものを大切するといった手作りの良さにも気付かせ、今後も自分や家族の生活を豊かにするための工夫をし、実践しようとする意欲と態度を育てたい。

（2）指導内容の系統性

教材の配列は、次の通りである。



(3) 生徒の実態 (男子 人, 女子 人, 計 人)

○本時の授業を行うにあたって, 以下のような問題で生徒の実態を調査した。

(調査人数 人 調査実施日 平成 年 月 日)

調 査 項 目	回 答
①今までに衣服製作をしたことがありますか？	・はい…人 (スカート) ・いいえ…人
②今までにどんな物を作ったことがありますか？	・エプロン・クッション・ナップザック ・トートバッグ・ぬいぐるみ・枕 ・人形 ・ウォールポケット・小物入れ など
③ハーフパンツ製作は楽しみですか？	・はい…人 ・いいえ…人
* 「はい」の理由は？ * 「いいえ」の理由は？	・縫い物が好き・オリジナルを作りたい ・初めてなのでとても楽しみ など ・縫い物が苦手だから・めんどろ など
④どんなハーフパンツを作りたいですか？	・シンプルで普段きちんとはける物 ・可愛い物 ・自分の体にあった物 ・かっこいい物・丁寧に縫った物 など
⑤自分で採寸をしたことがありますか？	・はい…人 ・いいえ…人
* 「はい」の人はどこを採寸したのか？	・エプロンの長さ・クッションや枕の巾 ・自分のウエスト・防災頭巾の巾 など
⑥採寸をされたことはありますか？	・はい…人 ・いいえ… 人
⑦なぜ採寸が必要か知っていますか？	・はい…人 ・いいえ… 人
* 必要な理由は？	・自分の体にあった正確なサイズを知るため ・製作する物の必要なサイズを知るため など

<考察>

本学級は, 無邪気で明るく, 積極的に発言したり作業を進めたりする生徒が見られる反面, 幼くて, 人の話が最後まで聞けなかったり, 比較的落ち着いている生徒も, 作業に時間がかかることがある。3年生になり, 授業を隔週で行っているため, 本時を迎えるのに, まだ2回しか授業を行っていないのが実態である。

そこで, 授業の活発化と効率化を図るために, グループ活動を取り入れ, 話し合いや作業学習を友達と協力して行わせたいと考える。

実態調査から, 今まで衣服製作の経験はスカートを製作した女子生徒1人しかいない。しかし, 小学校時にエプロンやクッション, トートバッグなどの製作をしている生徒が多数いる。ハーフパンツ製作に対しては「めんどろだから。」「縫い物が苦手だから。」といった消極的な生徒が3分の1程度いるが, 多くの生徒は「オリジナルのハーフパンツを作ってみたい!」「初めてなので楽しみ!」と意欲的である。項目④からも「きちんと着用できる物を作りたい。」「丁寧に縫って仕上げたい。」と, 知識だけでなく, ミシン操作などの技術面にも大変向上心を持っていることが伺えるので, 技術の向上を図るために, 繰り返し練習させたい。採寸に関しては, 制服の購入時に採寸されたことはあっても, 自分で採寸したことは少なく, 小学校時にエプロンやクッションなどの丈を測った程度である。項目⑦で, 「自分の体に合った正確なサイズを知る為に採寸は必要である。」と, 3分の2の生

徒が必要性を認めている。採寸は、本時の授業の大きなポイントでもあるので、正しい採寸の仕方を考え、実際に採寸することで理解を深めさせ、今後に活かせるようにしたい。

4 目 標

- (1) 衣服作りに関心をもち、積極的に作業に取り組むことができる。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- (2) 能率的に作業が行えるように、手順や縫い方を工夫することができる。
(生活を工夫し創意する能力)
- (3) 裁縫用具を正しく安全に取り扱い、ハーフパンツを作ることができる。(生活の技能)
- (4) 衣服作りの工程と製作する衣服に適した縫い方の方法を説明することができる。
(生活や技術についての知識・理解)

5 指導計画 (17時間扱い 本時は3時間目)

時間	学 習 内 容	支援及び指導上の留意点	評 価 規 準 (規 準 : 方 法)
0.5	1. 衣服製作の計画を立てる。	・衣服を作る工程の概略を知らせることにより、全体の見通しの上で作業ができるようにする。	・衣服作りの工程を説明することができる。 (知・理：発表，学習プリント)
0.5	2. 自分に合ったデザインを考える。	・イメージをふくらませやすいよう、各部分の見本を用意し、意欲を高めさせる。	・自分の個性に合った、イメージ通りの衣服をデザインすることができる。 (技：デザイン画)
2	3. 自分の体の寸法を調べる。	・動作による体の寸法の変化(ゆとり)について説明する。	・体の形と衣服の関係について考えることができる。 (知・理：学習プリント)
本時 2 / 2	・採寸をする。	・必要な採寸箇所を知り、正しく測れるよう、実際に師範して見せ理解を深めさせる。	・製作に必要な採寸箇所とその方法を理解し、採寸することができる。(知・理：学習プリント)(技：観察，学習プリント)
1	4. 自分の寸法に合った型紙を選ぶ。	・胴囲を基準に型紙を決めることや自分の寸法に合わせた補正と自分の好みによる補正があることなどを知らせる。	・各自の寸法に合った型紙の選択や活用ができる。 (技：学習プリント，型紙)
1	5. 必要な材料や用具を調べて準備する。	・布は必要量や色・柄だけでなく、品質表示を見て手入れのしやすいものを選ぶよう話す。また、布に合う糸やデザインに応じて必要なボタンや用具も確認するようアドバイスする。	・製作する衣服に適した布地や材料を選ぶことができる。(技：観察)
2	6. 布を裁断する。	・裁断する前に、必ず教師の点検を受けるよう指示をする。	・しるしの付け方，裁ち方の要点を知り裁断することができる。(知・理：学習プリント)(技：作品)
10	7. 能率良くきれいに縫う。	・作業の準備やミシンの準備をし、スムーズに製作できるようにする。 ・縫う部位に応じた様々な段階見本を用意し、適切な縫い方ができるよう工夫する。	・縫う部位に応じた、縫い代のしまつや丈夫な縫い方の工夫ができる。 (創・工：作品) ・自分なりの工夫を加え、ハーフパンツを完成させることができる。(技：作品)

6 本時の指導

(1) 目標

製作に必要な採寸箇所とその方法を知り，採寸ができる。

(生活や技術についての知識・理解) (生活の技能)

(2) 教科研究主題との関連

技術・家庭科では、「①社会の変化に対応しながら、生活を営む上で生じる様々な課題を解決する力②自ら判断し，習得した知識や技能を生活に生かす力」の2点を「伸ばしたい確かな学力」と位置づけた。指導の手だてとして，授業の取り組みの中で基礎・基本を定着させ，課題解決能力を育成するために，教材開発や評価方法を工夫し，生徒が学習の成果を実際に生活に生かせる授業を実践することが重要であると考えている。また，表現する力を育成するためには，生活における課題を解決する中で，言葉だけではなく，設計図やデザイン画，献立表といった図表及び衣食住やものづくりに関する概念などを用いて考えたり，説明したりするなどの学習活動を積極的に取り入れ実践することが必要であると考えている。

そこで，これらの実現をめざし，本時では布を用いた製作で欠かすことのできない採寸について考え，説明したり採寸することで，表現力はもちろん知識・理解や技能を身につけさせたい。また，学習プリントや評価カードを活用し，良かった点や改善点を見つけるなど毎回の学習を振り返らせることで，意欲の高揚を図り，学んだことを今後の生活の中で積極的に生かそうとする生徒を育成したい。

(3) 展開 (本時3 / 17)

※表現する力を育成する取り組み

時配 形態	学 習 活 動 と 内 容	支援及び指導上の留意点 ◎ 評価 (規準：方法)
5分 一斉	1 本時の学習課題がわかる。 ・自分の体や好みに合ったハーフパンツを作るにはどうしたらよいか考え，採寸が必要であることをつかむ。	・体の形と衣服の関係についての学習を思い出させ，自分の体や好みに合ったハーフパンツを作るには，正確な採寸が必要であることを気づかせる。用具として巻き尺(メジャー)が必要であることを確認する。
5分 個別 ↓ グループ	2 ハーフパンツ製作に必要な採寸箇所について考える。 (下衣) ・胴囲 ・腰囲 ・また上 ・パンツ丈 * (上衣) ・胸囲 ・着丈 ・袖丈	※ハーフパンツの形と体の特徴を重ね合わせて考えさせる。個別だけでなく，グループでも話し合い，なぜその箇所の採寸が必要なのか説明できるようにさせる。 ・教科書P 117 や学習プリントを参考にするよう指示をし，採寸箇所がはっきりと確認できるようにする。 ・下衣であるハーフパンツの採寸箇所だけでなく，ブラウスやTシャツなどの上衣の採寸箇所にもふれ，採寸の仕方の学習を深めさせる。

<p>17分 個別 ↓ グループ</p>	<p>3 ハーフパンツ製作に必要な採寸箇所 の採寸の仕方を個別やグループで考 え、発表し、学習プリントにまとめ る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 胴囲 (胴の一番細い所を水平に測る) ・ 腰囲 (腰の一番太い所を水平に測る) ・ また上 (いすに座り胴囲線から座面まで) ・ ハーフパンツ丈 (わきで胴囲線から好みの丈まで) <p>* 上衣の採寸の仕方も同じように考 え発表し、学習プリントにまとめ る。また、模範したものを観察す る。</p>	<p>※ ハーフパンツの採寸の仕方を個別やグル ープで話し合わせる。発表には、実際 に人台や生徒を使い、模範となるよ うにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習プリントに採寸の仕方をきちん と記入させ、自分が実際に採寸する 時には、これを参考にできるよう促 す。 <p>※ 下衣だけでなく、上衣についても採寸 の仕方をしっかりと理解させるため 、個別やグループで話し合わせ、発 表や実際に人台や生徒を使い模範 としてできるようにさせる。</p>
<p>15分 グループ</p>	<p>4 2人か3人一組になり、お互い を実際に採寸する。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 巻き尺(メジャー)を用意する。 * 服装を整える。 <ol style="list-style-type: none"> ① ゴムを胴囲線に巻く。 ② 足をそろえ、自然に立つ。 ③ 学習した方法で採寸する。 ④ 学習プリントに各自のサイズを 記入する。 ⑤ 交替して採寸する。 ⑥ 静かに座って学習プリントをま とめはじめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胴囲線がはっきりするように胴の一 番細い所にゴムを巻くよう指示を する。 ・ 正しく採寸できているか、お互い確 認しながら採寸し合うよう助言し 、学習プリントに結果を必ず記入す るよう指示をする。 ・ 服装や姿勢など、正しく採寸でき ているか個々に確認する。正しく できている組は賞賛し、できてい ない組は、採寸の仕方をもう一度 確認させるなど配慮する。 ・ 終了した組は静かに自席に座り 、学習プリントをまとめはじめる よう指示をする。 <p>◎ 採寸箇所と採寸方法を正しく理 解し、採寸することができたか。 (知・解：学習プリント) (技：観察、学習プリント)</p>
<p>5分 個別</p>	<p>5 作業過程を学習プリントに自己 評価し、学習のまとめとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業の過程をきちんと振り返り、 評価するよう促す。
<p>3分 一斉</p>	<p>6 次時の学習内容をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は、自分に合った型紙の選 択方法を学習することをつかませ る。

